

赤穂未来創造委員会 第2回教育・文化・経済部会 会議録

1 日 時 平成30年11月22日(木) 17:00～18:17

2 場 所 赤穂市役所 2階 204会議室

3 出席者

(1) 委員

金沢 緑部会長、小川温子、寺田榮治、元岡 明、内藤茂男、大木善夫、山本真一、  
安田 哲、川本哲也

(欠席委員：目木敏明)

(2) 事務局

磯家市長公室長、山内企画広報課長、澁谷総合計画・戦略推進担当係長

4 次第

(1) 開会

(2) 協議事項

① 前回の部会における意見の整理

② 基本的な方向性のまとめ

(3) その他

(4) 閉会

5 議事概要

(1) 開会

事務局

ただいまから、第2回教育・文化・経済部会を開催いたします。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

それでは、本日の議事進行につきましては、金沢部会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

部会長

みなさんこんばんは。本日の会議につきまして、円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

はじめに、委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

事務局

この部会の委員数10人に対しまして、現在の出席者数は9人です。おひとりから欠席の連絡を受けております。以上です。

部会長

事務局報告のとおり、半数以上の委員の御出席をいただいておりますので、本日の会議は成立しております。

会議は、お手元の会議次第にしたがいまして進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(2) 協議事項

- ① 前回の部会における意見の整理
- ② 基本的な方向性のまとめ

部会長            それでは、これから議事に入ります。

                    次第2の、協議事項に入らせていただきます。

                    前回の委員会では、委員の皆さんからの御提案につきまして、色々な意見交換を行いました。本日は、それらの意見を踏まえて、部会として大きな方向に集約していくことになります。

                    意見の集約に当たりまして、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局            前回の会議におきまして、委員の皆様からいろいろご提案いただいた事項につきまして意見交換がなされたところです。

                    そして、事前に本日の資料としてお配りした資料ですが、1として前回の会議での意見を項目ごとに、教育対策、文化・スポーツ対策、産業対策の順に整理をさせていただいております。前回の会議を踏まえ、本日の会議としましては、意見の集約を図ることになりますことから、2として基本的な方向性のまとめというかたちで、この会議に先立って部会長と協議を行い、3つの柱を記載しております。

                    1つは、「子どもが「学ぶ」機会づくり」、2つ目は、「何度でもチャレンジできる環境づくり」、3つ目は、「健康寿命を延ばし、元気な高齢者を増やす」、というかたちにしております。そしてそれらを、「地域資源である「関西福祉大学」をまちづくりに生かす」というふうにまとめています。

                    ただ、あくまでこれは、前回の会議を踏まえた本日の議論を進めていくためのたたき台という性格のものでございます。以上です。

部会長            どうもありがとうございました。

                    それでは審議に入りますが、今、事務局から説明がありましたように、この会議に先立ちまして、部会長として、意見の集約を図るためのたたき台を、2の基本的な方向性のまとめとして提示させていただきました。

                    皆様から色々なご意見をいただいております。そして、「人口減少社会を見据えた提案を」というこの本委員会の趣旨を踏まえて、3点にまとめております。

                    本日は、このたたき台について協議を進めていきたいと思いますがいかがでしょうか。

- 委員一同 異議なし。
- 部会長 ありがとうございます。それでは、最初の子どもが「学ぶ」機会づくりから始めたいと思います。
- 前回の会議では、義士や塩、山鹿素行なども含めて、地域のことを学ぶ機会が大切だというご意見がございました。また、トライやるウィークなどを通じた地元の向上や事業所などでの経験を通して、子どものころから地域の産業を積極的に学ぶことも大切だというご意見がございました。
- 「子どもたちが学ぶ機会」は、学校教育だけでなく、地域で学ぶ、地域のことを学、地域の方々から学ぶといったような、社会教育との連携を図っていく必要があるということは皆様と共通認識させていただいたところです。
- 「子どもが「学ぶ」機会づくり」ということについて、さらにご意見はないでしょうか。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。
- 委員 「子どもが「学ぶ」機会づくり」は、とても素晴らしいことだと思いますが、学校教育と社会教育の連携については、例えば社会教育の場を具体的にどのように考えるかです。地域を学ぶとかなど意見が出ましたが、そのような部分を作っていくと同時に、一番下にも出てきますがスポーツや芸術を学ぶ機会でもあると思います。ですので、範囲を広げて社会教育の中で子どもたちを育てていく。赤穂市は次の子どもを育てることに力を入れていますということで、社会教育の中身をもう少し詰めることができれば良いと思います。
- 部会長 そうですね。前回に皆さま方から随分細かいことも伺いました。今回は、大きなテーマをもって方向性を定めていくということですので、割に大きなテーマで言葉も書かれております。この大きな言葉の中に、学校教育と社会教育の連携とさせていただいておりますが、もう少し詳しい説明が欲しいということですね。
- 委員 はい。イメージできるようなものが欲しいと思います。
- 部会長 では、前回の資料の中にもたくさんあると思いますが、まとめて言って構わないならば、事務局から説明をしていただいてもよろしいですか。
- 事務局 先ほど委員さんがおっしゃったように、もう少しスポーツや芸術の分野も、というような意見も発言していただきたいと思います。これはあくまで提案となる柱立ての柱の項目ですので、この後ろに先ほどの意見のような具体的な内容を書き込んでいきます。ですので、先ほどのようなご意見を言っていただき、この会の意見として最終的に柱の中に、例えば、スポーツや芸術についてといったことを入れていきたいと思います。

委員 地域を学ぶということについてです。私は尾崎地区に住んでいますが、尾崎小学校の全児童が参加して地域の史跡のようなところを巡るウォークラリーのようなことをします。それによって、尾崎の子ども達が尾崎の歴史を知り、将来住み続けようという意識をもってもらえたらという意図で小学校と連携して実施しています。そういうかたちの、社会教育の1つかも知れませんが、地域社会との連携という方向付けも必要だと思います。

部会長 地域の文化だけではなく、そこに住む人たちの健康や地域連携、大きなテーマになってまいります防災でも、どのように地域が連携していくかということは、学校教育だけではなく地域で学ぶことも多いと思います。そのような項目も加味していければ良いかなというご意見ですね。

委員 はい。

部会長 ありがとうございます。他に意見はありますか。

委員 前回、私は文化芸術活動の振興について発言をさせていただきましたが、これは決して元気な高齢者を増やすという観点で発言したのではありません。先ほど委員の発言にあったように、子どもが学ぶ社会教育の1つという観点で発言させていただきました。

「子どもが「学ぶ」機会づくり」の部分と、2つ目の「何度でもチャレンジできる環境づくり」、学び直し、リカレントとありますが、言ってしまえば「教育」であったり、また「世代を通じた教育の先進都市」というような大きな方向性を挙げても良いです。ただ「教育」という言葉は非常に硬いと思います。豊かに生きるすべを文化や学問、スポーツを含め学ぶことが教育だと思います。豊かに生きるための教育や、そのような環境づくりというように大きなくくりで言うて良いのではないかと思います。

また、3つ目の「健康寿命を延ばし、元気な高齢者を増やす」ことについては、今後、高齢化社会は避けて通ることができない話です。赤穂が「高齢者にとっても住みやすい福祉の先進都市」、関西福祉大学もあるので、そのようなところと連携した意味での「福祉の先進都市」、どんな方が来ても生涯死ぬまで豊かに生きることができるという意味での「福祉の先進都市」が大項目でも良いと思います。

もう1点は、この部会の名前は、教育・文化・経済部会ですので、経済や産業にかかる項目が無いのは、片手落ちになると思います。雇用が無ければ外に出てしまい、都市自体が維持できない部分もありますので、産業にかかる大項目は挙げておかなければならないと思います。例えば、福祉産業の先進都市を掲げるのであれば、関西福祉大学との連携やそのような研究機関の誘致を含めるなど、このような1つのテーマもあると思います。産業については、何らかのかたちで入れなければならないと思います。

部会長           ありがとうございます。この3つの柱以外にもう1つ新しい柱を立ててはどうかというご提案ですね。

委員             はい。私としては、上の2つは教育なので、豊かに生きるための学びの機会づくりということで2つをまとめてしまい、3つ目については福祉としての項目、もう1つが産業に関する項目と3本立てがいいかなと思います。

部会長           産業については、前回いただきましたカテゴリーの中に「産業対策」というものがありました。この中では、もの作りの企業など、つまり第四次産業革命対応の育成、優れた労働の担い手づくりと若者が集うまちづくりということで、企業の支援や仕事の魅力発信というものを出していただきました。これらのことについて、もう1本柱を立て、前回資料の33番から36番で出していただいたような観光振興対策も含め1本にしてまとめた項目を1つ作るのはいかがでしょうかということですね。

委員             はい。産業においてどこの分野だけと限るのは難しいですが、観光も含めたところで産業部門も作った方がいいかなと思います。

部会長           そうですね。本日の資料の1ページを見ていただきますと、産業対策のところ2つの項目がまとまっています。これらを1つの対策として入れていくということでもよろしいですか。

委員             これだけでは細すぎると思います。これはかなり細かい話なので、もう少し太いものをドンと産業政策の中に大項目として入れておかなければいけないのかなという気がします。

部会長           私たちは、教育・文化・経済部会で、もう1つは福祉・環境・安心部会があります。そちらの方でも福祉に関する産業や地域おこしのことなどもあるかと思いますが、福祉・環境・安心部会とも合わせて、最終的には1つになるとと思いますので、今のお考えは少し加味していただいて事務局に入れていただくようお願いしておきたいと思いますが、よろしいですか。

委員             はい。

委員             前回欠席しましたので。語弊があればお聴き流してください。

今回の意見集約の中で、学校の子どもたち、福祉大学の学生についての考えがありますが、赤穂市には赤穂高校がありますので、高校生の意見があれば良いと思います。ただ受験がありますので、いろいろと難しいですが、今の高校生がどう思っているのかは、教育においても産業においても大切ではないかと思います。市もU I Jターンでの声掛けなどいろいろやっておりますけど、高校生は中学時代にトライやるウイークをしますが、実際の産業ではインターンです。それで自分の勉強や進路を考えてもらおうと。そういった意味で高校生が産業に関わるかたちをと意見集約に出していただいたと記憶しています。

もう1つ、教育については、学校教育と社会教育と大きなカテゴリーなので、産業の中で職員といったものを考えた場合、役に立つ実学が欲しいです。社会保障については、本来は親が教えるものですが、今は親も知らないので、なかなかそのような教育が行き届いていません。何らかのかたちで、赤穂で実学を教えることができれば良いと思います。納税協会では、税の啓蒙の作文や習字、ポスターを市内の学校にお願いをしています。商工会議所の青年部の方々においては、税務署で教育を受けて講師の資格を取っていただくようお願いをしています。市においてもそのような認識を高めていただいて、年内にも表彰式を市役所でさせていただきたいと思っています。といたしますが、税金については、小さな頃から知っておくべきことです。親が教えてあげなければ、一生知らずにただお金をとられるだけです。子どもにもアルバイトをしたら確定申告をしないと教えています。そのような実学というものの重要性について何か取り組んでいくことの1つに力強い講師づくりがあるかなと思います。

部会長           ありがとうございます。実学を学ぶ場というのは、例えばどのようなところですか。

委員               課外授業でも良いですし。

部会長           学校教育の中に入れていくという意味ですか。

委員               課外授業で考えていただくこともできると思います。ただ、企業に来ていただくのであれば、ある程度の年齢の方のインターンシップでの受け入れがあります。

部会長           今、皆さま方から言っていたいただいた学校教育と社会教育、大きな意味で言えば、赤穂の中での社会の流通であるとかは、2つ目の「何度でもチャレンジできる環境づくり」の下に学び直し、リカレント教育とありますが、このリカレントの中に実学の部分を入れていくことも可能です。そこで教えていただく方は、学校の先生だけではないと思います。そこで皆さん方はそれぞれプロフェッショナルなので、仕組みを作ればそこで特別講師なり特別教授なりの名前で教鞭をとってもらおう。例えば赤穂学といったものの中に実学の部分を入れていき、赤穂の産業と教育、スポーツや健康増進など、そのような先生方として市民の方々に称号といいますか、ある程度のインセンティブを持っていただき、肩書きも赤穂で通用するだけかも知れませんが、そのようなもので全体を大きな枠の中に入れて1つにまとめていく。スポーツ、学校教育、社会教育と分けるのではなく大きな輪の中でそれを考えていただけたら、更に良いのかなと思います。

今日は3本柱を書いていたのですが、これを4本柱で産業や経済のこともと言っていました。先ほどの意見のように税のことは、子ども

も知らないかもしれませんが、大人も税金の制度が変われば新たに学ぶこともあるでしょう。そのようなことを有機的に繋げていながら、作っていくような提案になれば良いと思っています。難しいかも知れませんが、事務局の方でこのことについて少し加味していただいて、次のところを相談させていただきたいと思います。

委員

赤穂高校の生徒がどのような考えを持っているかという意見がありましたが、私は赤穂高校に勤務しておりましたし、今も少し関わりがあります。毎年、様々な職種の方に来ていただいて話をさせていただいています。将来自分がどのような職業に就きたいかということで、例えば市内の企業でしたら、赤穂化成さんに来ていただき、実際に赤穂化成ではどのような事業を行っているのかを説明していただき、市外からはグローリーから来ていただきました。市民病院からは看護師の方や薬剤師の方、教育委員会からは教育次長に来ていただいたりしました。このように職業教育的なことは実施しています。税については、相生税務署の依頼で夏休みに全員ではありませんが、税の作文を書いています。実学的な形で活かされているかは分かりませんが。

部会長

大学でも校内連携事業というものがあります。高校と大学が一緒になって学生のキャリア教育、将来の職業教育を実施しています。意外と学生は職業の種類を知りません。自分の親や近所の方、親戚の職業については少し知っていますが、世の中の数ある職業のことについてはほとんど知りません。では、それをどこで知ることができるのかと言ったときに、医者、弁護士、学校の先生、商店、産業に関わっていらっしゃる方などのところへ行ったり来たりするのではなく、模擬的な体験から学ばせることも高校生には良いのではないかと。そして、そのようなプログラムを提供するような仕組みを、市役所や大学、皆さん方の力でできたら良いと思います。

私は人生100年時代だと思っていますので、皆さん自身が新しいことを学んで次世代に伝えていくと。共働きの子育て世代のお父さん、お母さんが、子どもをおじいちゃん、おばあちゃんに見てもらおうときに、おじいちゃん、おばあちゃんは昔の教育を受けていますので、教えると学校で教えられることと少し違っていたりして、子どもが戸惑うと聞きました。最近は、「育じい」という言葉があります。新しいことを学んでいただいて、自分の孫だけではなく、近所の方々と一緒にグループを作って地域に貢献していただくというような、実学とは違いますが、リタイアしても自分の力をまだまだ地域の中で役立てていただけるというモデルがあると、元気づくということもあるのではないかと。この3本の柱を考えさせていただきました。これに先ほどおっしゃった経済や産業の部分が加われば、更に良いものになっていくのではないのでしょうか。

- 赤穂高校は地元の学生は多いですか。
- 委員 半数以上は赤穂の人です。
- 部会長 それなら、高校がせっかくあるので、小・中・高と大学と全部連携することもできますね。
- 委員 赤穂市の教育委員会には、生徒を地元の高校へ送り込んでくださいという依頼はしていますが、成績が優秀な生徒が市外へ流出する現状は否めません。
- 部会長 成績優秀とは、考え方にもよりますよね。
- 委員 はい。塾の高校のランク付けに保護者がそれに寄りかかっています。
- 委員 相産業高校は実学的なことをしていますが、就職においても、姫路の大手企業を含め、西よりも東に人材が流れていることも現実です。
- 部会長 本学の入試の偏差値は決して高くはありません。しかし、4年間の学業を終えた学生たちで、24人が教員採用試験に合格しました。去年は10人でした。このように増えていくということは、入学してからの努力です。ペーパーの力は弱いかも知れませんが、それを強める意思と意欲があれば、短期間で上がっていくことができます。それは小さいロットだからできているのであれば、それがモデルと考えていただくと、赤穂というまちの中でそのようなことが実施できるのではないのでしょうか。ペーパーテストで高得点であるだけでなく、人間味があり、人の役に立とうという志があり、赤穂のまちの役に立ちたいという若者が育つために、下支えしていく新しい提案ができたら良いなと思います。
- 委員 どんどん発言してください。すみません。最初に「子どもが「学ぶ」機会づくり」について、次に「何度でもチャレンジできる環境づくり」について、そして「健康寿命を延ばし、元気な高齢者を増やすについて」と順番にこうと思っていましたが、1つずつ独立しているわけではないので、どうぞご自由にどの項目からでも結構ですので、ご意見をお願いします。
- 委員 私は青年会議所に所属しています。今、青年会議所では、どちらかと言えば元気な高齢者が増えすぎているというような感じですが。
- 部会長 どちらかと言えば、若い世代がもっと元気を持って、まちを活性化できれば良いと思いますが、どこかで誰かが事業を起こしているということもなかなか情報で伝わって来ないので、赤穂市の若者が集まる異業種交流会のようなものが開催されると、そこで横の繋がりができ、少しは若い世代が元気になると思います。
- 部会長 今はないのですか。
- 委員 今は一応、青年会議所でも何とかしようとしています。情報があまり出て来ません。

委員 異業種交流会は、今年の4月で解散しました。

部会長 理由は何ですか。

委員 超高齢化で入れ替えが上手くいっていないので、いろいろな動きはありましたが、最終的には無くなりました。もっと青年会議所の方に入ってもらえば良かったのですが、非常に残念です。異業種交流の集まりがあるからどう、と声掛けはしたいと思いますが、また違いますよね。

委員 青年会議所の方もメンバーが少なくなってきたので、増やそうとそのようなことを始めだしました。それでも情報が無いので、同じところに行ってしまうので、できればそれを市でしていただけたら集めることができるかなと思います。

私は赤穂高校出身です。学力が弱く大学には進学できませんでした。高校生のときは、都会に行きたい想いが強かったので、ただ都会を見たいがために大阪へ行った時期がありましたが、大阪に住んでみて赤穂の良さに気が付き帰ってきました。私も親ですが、子どもには小さなときからどんどん外に出てもらい、外国などを見て赤穂の良さ分かってもらいたい想いがあります。子どもはサッカーをしています、できるだけ遠征が多かったり、合宿が多いところを選びました。娘は合唱団でオーストラリアに行くことができます。

部会長 オーストラリアとは、姉妹都市か何かですか。

委員 ロッキングハム市です。

部会長 また今度来られますよ。

委員 そのように、子どもには学校教育も大切ですが、外に出ていろいろなところで生活してみたりして、帰ってきたときにやっぱり赤穂がいいと赤穂の良さを再確認できるような、そのような団体があっても良いと思います。

部会長 ありがとうございます。良さはなかなか分からなかったりするのですが、委員の思う良さとは何ですか。

委員 私が赤穂に帰ってきて思ったことは、住みやすいことです。

部会長 それは、どのような点から言えますか。

委員 近所付き合いや、人付き合いです。大阪ではなかなかできなかったのも、赤穂で生活した方がうまくできていると思います。

部会長 おっしゃる通りかも知れませんね。住みやすい理由の1つは、人ということですね。マンションの隣の人の顔を知らないという都会ではないところが赤穂の良さの1つですね。

委員 先ほどの意見のように、子どもがいろいろなところを見ることは、1番の社会教育の中に含め、力を入れていただいて、そのような団体を支援するというようなになれば良いと思います。前回、若い人が赤穂の会社などになかなか

か目が向かないという話がありました。例えば小学校からキャリア教育をしていますが、他所のまちの会社を見に行くんですよ。大きな会社ばかりではなくて良いのです。例えば、市内の企業やパン屋さんなど行きたいけれども、どこが受け入れてくれるのかなど情報がありません。例えば赤穂の中で、建設業なら建設業の中でどこが受け入れてくれるのかなど職種別にまとめてキャリア教育のお手伝いをしますといったことも視野に入れて、もっと子どもと結びつくような組織を作っていたら良いと思います。

委員 初めて参加させていただいたので、よく分かりませんが、教育・文化とう面では、子ども達の様子を見ていると少し忠臣蔵に偏りすぎていると思います。忠臣蔵については、赤穂で育った子ども達には知っておいて欲しいですが、ある意味、脱忠臣蔵も考えなければならないと思います。

赤穂はどうしても南は海ですし、西に行くにも東に行くにも山を越えるのでどうしても閉鎖的というか島国的のようなところがあります。中でしていくことも良いですが、外に外に発信する方法を考えていかなければならないと思います。

部会長 外に行くとはどの辺りまでですか。

委員 高取峠を越えることもある意味外であり、日本を出ることも外なので近い遠いはありませんが、内に内に行かないで外に外に行くようにキャリア教育なりをして欲しいと思います。私の子どもも、赤穂の中ではなく外に出て行く人になって欲しいと思います。赤穂が悪いわけではありません。しかし外に出ていく人間になって欲しいとは思いますが。

部会長 帰って来なくても良いですか。

委員 はい。

部会長 おふたりの意見は、子どもたちが夢を持って外の世界を見てくる。そして、その夢を見て、赤穂に帰ってくるかも知れないし、外で夢を見続けるかも知れませんが、そのようなところも必要ではあるかも知れませぬ。

委員 そもそも話ですが、この未来創造委員会は、10年後をにらんでの話ですよ。この3つを3本柱とおっしゃっていましたが、この絞込みについては、産業について入っていないというご指摘がありました。その通りのご指摘だと思います。例えば、「子どもが「学ぶ」機会づくり」やリカレントについては一括りで良いと思います。そもそも何本の柱にするのかをある程度アプローチとして議論し、きちんと筋立ててすべきだと思います。なんとなくそれぞれが、それぞれに思うところをお話されて、結局まとまりが無くなってしまいう傾向にあるのではないかと思います。例えば、切り口として、教育、文化、経済の中で前回にいろいろと議論があったわけですが、その中で漏れているようなものを挙げていき、出てきた課題や方向性を何と何にす

るのか議論しなければ、このままですと教育についての話がずっと続くのではないかと思います。教育は根本なので、大事なことなので軽視するつもりはありませんが、3本柱とするのなら、1つの柱は教育について立てなければならないかも知れませんが、残りの2つを鮮明に議論する場にしなければ、お話を聞いていると教育1本のような気がします。

部会長       この3つのこと、社会教育も学び直しも、生涯スポーツも産業も繋がっているような気がします。

委員           もちろんそうです。

部会長       繋がっているもののキーワードを出していただくと、おそらくすっとうと思います。何かありますか。

委員           10年後をにらむ、例えば近隣の自治体がどのようなことを実施し、そのような面でスポットライトを浴びている、あるいは、そのようなことについて、こちらも学ぶということもあるでしょう。

                そして、教育はベーシックなものとしてありますが、経済や産業が無いところに都市の発展は無いと思います。もう少し、経済や産業を大きくクローズアップしていくことも考えなければならないのではないかと思います。

部会長       私はどの柱でも同じだと思っております。経済、産業だとどのような柱がありますか。

委員           前回の会議、また今回でも出ていましたが、企業誘致や研究機関の誘致など、いわゆる産業誘致ですね。そのようなものは、大きな柱の1つとして立てるべきだと思います。

事務局       本日お示ししている柱立てなどは、前回の議論を踏まえてとりまとめたものでございます。事務局が勝手に議論していないことを入れることはできませんでしたので。福祉・環境・安心部会におきましても、新たに2回目の部会で柱を1本追加しました。2つの柱を1つにするなどといった、そのための議論のたたき台です。たたき台も無く、今からまとめましょう、とするのは難しいのではないかと思います。部会長がおっしゃいましたように、産業の方の柱について具体的に、たとえば、優れた労働の担い手づくりといったようなことも柱として入れるのか、そのようなことを議論していただきたいと思います。

委員           先ほど、外に向かってという意見がございました。私なりに解釈させていただくと、情報発信だと思います。市内向けについても当然認識をしておかなければなりませんが、他の自治体にももう少し発信してくような活動もしていかなければ、市内だけでは限界があるということは、まったくその通りだと思いつながり拝聴していました。

                そしてやはり、教育・文化・経済としているのですから、資料1ページの

産業対策で、この2項目だけ上げるのは、覚悟が無いような、インパクト不足という感じがします。

部会長 産業対策を入れるとしたら、先ほども出ていましたが、担い手づくりとするのか、産業振興については、どのような形で入れさせていただいたらよろしいですか。

委員 赤穂で産業について一番危惧していることは、人手不足です。短期未来でも長期未来でも。高齢者や女性が活躍していただいてやっていこうということや、また国でも進めています外国人労働者、といっても外国人の権利を保全しないで果たして来てもらえるのか非常に危惧するところがあります。しかし、恐らく近未来そうなると思われれます。この辺も産業において非常に大きな課題です。働き手が増えると、商業やサービスも連動して増えます。担い手において、今必要なことは一次産業と二次産業です。三次産業はまだまだ障壁がありますが、ただ法律は変わっていくだろうと。それが一番ネックではないでしょうか。

もう一つは、我々もそうですが、次のビジネスモデルを構築できずにいます。そのような意味では、関西福祉大学がホスピタリティにかかるオーソリティーですので、ゆりかごから最後までと、そのようなところから、今後の10年後、ビジネスモデル等を出していただけると非常にありがたいです。

部会長 私もそのようなことをさせていただけたらいいと思います。

産業の担い手、人づくりということですね。

委員 その担い手ですが、世襲は非常にいいやりかただと思います。文化が繋がっていきますから。あの人の子どもだと言えば取引先も安心されます。しかし受け手が手を上げない時代になったことも事実です。魅力があれば、我が子でなくても誰かが手を上げてくれるようにしなければならぬと思います。担い手づくりは、お金だけでなくやりがいを示すなどありますが、具体的にどうやっていくかは非常に難しいです。

今後どういうやりかたでやっていくかですが、赤穂市がいろんな取り組みをして、全国の中ですごいなと言ってもらいたいというような夢のような希望があります。赤穂市には地元の名門赤穂高校があり、大学がありますが、この規模の自治体ではあまりないことだと思います。10年、20年後を考えて、とても牽引力があると思ったので、あえて産業については発言しませんでした。

ただ、産業で大きな問題は、まず人手不足であることです。

企業誘致も、固定資産税や環境の条例の問題などもちろんありますが、その中で赤穂に根を下ろしてやっていただいている古い会社は、昔の話ですが、忠臣蔵の里だということで赤穂に工場を作ろうという原点はあったよう

です。

委員

近隣の自治体に比べて、赤穂市は海に面しています。交通の面で利便性というかメリットはあると思います。そのようなものも企業誘致でアピールすれば良いと思います。

担い手や産業振興については、中項目としてあがればいい話です。産業対策の中に担い手も当然大きなウエイトを占めると思います。あまりいろいろ入れていくとぼやけてしまいますが。

部会長

はい。前回もそのような議論でした。ですので、大きなところでひとまとめにしていきたいというところで、先ほどおっしゃったように2本になるか3本になるかですが、産業の項目は入れさせていただくよう事務局にお願いしておきましょう。

先ほど話がありましたが、例えば高校生までの子どもが、いわゆるバーチャルシティ「赤穂シティ」で何か起業するならということ、地域の産業、商店の方、先生と様々な職種のところへ自分から行って、そのことを知ると。そして知った中で、赤穂市で何ができるか、この地形をどう活かすことができるか、この歴史がどのように繋がっていくのか、ここでどのような夢をみることができるのかといったことを、つたないかも知れないけれども自分なりに考えを持つといったところで、年上の世代からこうして欲しい、こうしたらいいよと提言を受けながら、こうしたい、このようにすれば良いのではないかというビジョンを出せるような仕組みを、もしプラットフォームとして大学を使っただけのならば、まさに大学も望むところです。子どもが学ぶ機会という、この機会の中にバーチャルシティを考えたらどうか。例えば、銀行員になりたい、洋服店を営みたいなど色々ある中で、このまちを作っていくときに、では道路はどうするのか、川があるけれどそこにもっといいデザインの橋を架けたい、こことここを橋で繋げたいといった子どもの夢が建築業に繋がるなど、そういうことを夢物語だと言うのではなく、10年、20年先を考えるのならば、描いた夢を自分が外の大学で学んだ力で、地元で活かしたいと思いを馳せることができるのではないかと思います。実現可能かどうか確実性はありません。しかし、将来的なものを見るときには、もちろん元気で長生きな高齢者のことも考えなければならぬし、これから育っていく子供たち、それを担っていく中堅世代、子育て世代、そして子育て世代を支えるその親世代と階層的なバーチャルモデルが必要になると思います。そうしたときにプラットフォームで地域資源と言っただけでした大学を活かしていただければ、関西福祉大学にない学部のことならば講師招聘も可能です。ご要望を出していただくことで、せっかくある大学をもう少し出していただければと思います。

委員

先日、相生在住の方とお話をする機会がありました。相生市は子育て支援を打ち出しているけれども、実際は、相生は住みやすくないと言っていました。「新幹線が停まるじゃないですか。」と言うと、「それは違います。子育てと言いながらも産婦人科が無く、子どもを産むには姫路か赤穂に行くのです。赤穂市はうらやましいまちです。」と言われました。でも、うらやましいまち、赤穂にも何かウリが必要です。私は地震のあった枚方に住んでいます。かつて閉園の危機にあった枚方パークでは、何とか振興しようと、売れている岡田准一を連れてきたり、子どもだけではなく大人を寄せるために、花火やナイトパークをするなど、そこを拠点としていろいろなことを始め、今は少し良くなって来ています。地震報道のとき、枚方は「まいかた」と呼ばれました。逆手に取って「まいかた」でも有名になれば良いではないかと、マイナスのことをプラスにする考えが必要だと思えます。私は、赤穂市は本当に住みよいまちだと思っています。赤穂市はモーニングがすごいです。モーニングを11時や12時まで出していたり、ランチもとても多いです。私はそれが不思議で仕方なく、これは他のまちには無いものだと感じました。まだ行ったことはありませんが、赤穂高校の近くにあるレモンというお店はすごいと皆言っていました。高齢の方が喫茶店に集っている姿をよく見ます。赤穂には喫茶店といった何かの起こりの拠点、情報発信ができるところがあるじゃないかと思えます。年齢の高い方やお母さん方が昼間に集まっているところに偶然居合わせました。そのような拠点多くあるということは、情報発信源がいくつもあるということです。今度このようなことをするけど、どうだろうと声掛けをし、市民の方の集まりを盛り上げていくのが良いのかなと思いました。また、子どもや学生の頭はとても柔軟なので、大人が話し合ったものと同時に子どもからも募集し、未来の赤穂をどうして欲しいかを子どもからも盛り上げてもらう。大人ならお金の動きがある、政府の動きがあると考えてしまうので、子どもから発信をするということで、小・中・高と分け、意見を求めたり絵で表すなどがきると、市民一体となってまちを考えていると思われるのではないのでしょうか。部会長が先ほどおっしゃったように、必要であれば、関西福祉大学は場所を提供することもできます。人も一緒にということであれば、良いと思えます。やはり本当に住み良いまちなのに、なぜもっとアピールしないのかと思えます。大阪は近所付き合いが難しいですが、赤穂市は住み良いまちで温かいです。たくさんある資源をどう情報発信をして良い町だとPRするのか。私は赤穂に住んで7、8ヶ月ですがいろいろ見ながらそんなことを思いました。

部会長

大阪から今年来ていただいた先生なので、大阪の情報もいただきました。どのようにウリを作るかは確かに必要なことです。今の赤穂のウリは、先

ほど委員がおっしゃったように、忠臣蔵の義士祭があります。それだけでいいのかという問いかけを含めて考えることができればと思います。

基本的な方向性のまとめには、これに産業・経済を1本追加します。

3本柱のうち上の2つを分けている理由は、「子どもが「学ぶ」機会づくり」につきましては、小学校から高校生くらいの学校教育と社会教育の融合であり、「何度でもチャレンジできる環境づくり」につきましては、定年退職などされた方、60歳はまだ若者です。その方たちがリカレントと言って新しく学び直し、その学び直しには経済や産業、経営なども含みます。そのような方々を仲間にし、繋がっていくという気持ちで分けました。「健康寿命を延ばし、元気な高齢者を増やす」につきましては、福祉と被るところが多い部分がありますが、本部会としましては、これに人口減少に有効な産業対策をもう1本入れさせていただき、進めてはどうかと思いますが、ご意見いただけますでしょうか。

委員 産業対策ということで、人手不足という話がありました。宝島社の関西版で移住したいまちで赤穂市が上位でしたね。

事務局 はい。子育てしやすいまちは近畿でも1位でした。

委員 ですので、若い人たちが赤穂は住みやすいというイメージを持っている方がかなり多いと思います。しかし、実際に赤穂へ移住して職場があるのか、あるいは住むところはどうなのか、その辺の情報発信が赤穂市から出ていません。空き家調査を市でも実施していて、その空き家の有効利用のため、持ち主と赤穂市でタイアップして貸し出すなど、いろいろな形で情報発信をしていくことは、移住を促進し、地元企業へ就職斡旋など、市がお膳立てすればかなり違ってくるのではないかと思います。

部会長 ありがとうございます。その辺のことを踏まえて、他にご意見があればお願いします。

委員 職業や会社の情報を兵庫県も作成しています。なかなか西播磨までの辺りがありません。会社としては、県民局と赤穂市の市長に、我々もお金を出すので、この辺の地域で働ける、個人営業を含めたすべての企業の情報を広報できませんかと。もちろん受益者負担なので、負担の無い程度のものを事業所からもいただいてという提案を何年も前から要望し、県民局の局長さんに良いことだと言っていたいただきましたが、なかなか進みません。

委員 神戸新聞で西播磨の企業を出していませんか。

委員 赤穂はほとんど出ていません。

部会長 大学で調べたときもそうでした。

委員 県のときにも外されています。今年県の150周年でしたので、我々が主体でその県の何らかの施策を活用しようという話はありませんが。

- 委員 確か神戸新聞で100社から載った単行本がありましたよね。
- 委員 ありました。一応、受益者負担もあって、受益者と言っても、個人事業主さんを押さえてあげないとしないということもありますからね。そういったかたちを整えた情報誌を小学生から親子さんまで見ていただくことから始めても良いと思います。
- 何が言いたいかというと、そのようなことを情報発信ということで、人手不足、働く場所が必要だろうと皆さんが推していただけましたら、それを力にして動かないかなと思います。
- また、企業誘致において、海を活用しないのはもったいないと思いますが、浚渫のお金がありません。また港湾法で守られていますので赤穂市だけでは何ともできない問題もあり、このようなビジョンに海辺、港の整備ということ載せて、赤穂の将来の財産だということ提言があれば話が進むきっかけになるかと思います。
- 委員 浚渫は大きな問題ですよ。だけど、企業誘致で赤穂港は大きなインパクトになると思います。
- 事務局 特に産業や労働の関係は基本的には県の事務になるので、なかなか市では難しいところもあります。
- 先ほどからのお話にありましたように、3本柱のうち上の2つにつきましては、1本にすることもできますし、事務局としては、そのところは部会長のまとめの段階で調整をさせていただきたいと思います。そして、新たに産業の振興といった柱を立て、その中身としては、まずは引き続き企業誘致が核になろうと思いますし、提案の中にございました、人手不足を支えていく優れた労働の担い手づくりについても必要であろうと考えます。また、第一次産業や第二次産業で、若い世代の担い手が特に少なくなっているような業種の仕事の魅力の発信や充実したキャリア教育が必要といったところで、1つの柱を設けるというようなお話だったと思いますが、そのようなことでよろしいでしょうか。
- 委員 近畿で自治体連合会という組織がありますよね。
- 事務局 広域連合ですね。
- 委員 あのようなもの、例えば赤穂市や相生市、たつの市でそのミニ版はないのですか。
- 委員 1つは、姫路市を中心に8市8町で構成された播磨圏域連携中枢都市圏というものがあります。もう1つは、赤穂市、備前市、上郡町での生活圏域の繋がりを持った定住自立圏があります。国は、そのような圏域を中心に考えていこうという大きな流れとして進められつつあります。
- 委員 1つの市では限界がありますので、ある程度そのような連携によって対処

する手立ても有効な手立てだと思います。ただ、姫路が中心となっているなら、赤穂市は一番端ですし、備前市とでは県が違うので、うまく連携できるようなできないような。難しいところですね。

部会長

ありがとうございました。そのようなことも含めまして、県や国の動向も見なければならぬと思います。先ほど申し上げたりカレントは、今後の事業です。補助金などいろいろあるかも知れません。そういったところも見て、赤穂市の財政も考えながら提言をさせていただきたいと思います。

皆さま方から、本日いただきました貴重なご意見を部会として取りまとめさせていただくこととなります。この後は、福祉・環境・安心部会の部会長とともに両部会で再度調整し、最終会議で提言書の案を審議していただくことになろうと思います。そのときは両部会合同でございます。

ここで、本日の部会としてのとりまとめなどを私に一任していただけるかどうかをお伺いし、終わりたいと思います。両部会のとりまとめをさせていただいて、よろしいでしょうか。

委員一同

はい。

部会長

ありがとうございます。そのようにさせていただきます。

### (3) その他

部会長

それでは次に、次第の3、その他について、事務局からお願いします。

事務局

はい。今回は、最終の全体会になります。年が明けまして、2月上旬から中旬に設定したいと考えております。

先ほど部会長からご発言がございましたように、提言書の案を両部会長と調整を行い、会議の前には委員の皆さんにお届けしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

部会長

ただいまの事務局の説明について、何かご質問等ございませんか。

委員一同

(質問等なし)

部会長

ないようでしたら、本日の会議はこれで終了いたします。

お忙しいところお集まりくださりありがとうございました。

お疲れ様でした。

### (4) 閉会